



JCI 高槻は創立55周年を迎えます。



Instagram



Facebook

**BE THE
CHANGE
THAT
YOU WISH
TO SEE
IN THE
WORLD.**

JC JOURNAL 2022
55th ANNIVERSARY

理事長所信

多様な個性が輝く高槻・島本の実現に向け 一人ひとりの可能性を解き放ち 一隅を照らす光となって躍動しよう

はじめに

新型コロナウイルスの蔓延によって、私たちの生活は一変しました。ごく当たり前だったことが、不意に問い直しを迫られました。取り巻く情報がいつそう膨大で混沌としたものになっていく中、今もなお長引くコロナ禍においての国民の不安は多岐にわたり、依然として今後の見通しは不透明な状況が続いています。

一方で、パンデミックの経済・社会への深刻な影響を経験したことで、経済合理性ばかりを追求した社会の脆さ、質的な成長と持続性確保の重要性を再認識し、ポストコロナ時代に向けては、世界の潮流を自分ごととして捉え、常に変化に構えておく必要性について学ぶことができました。

こうした社会の中において、今のあなたは、未来に対してどのような気持ちでしょうか。
「どうせ無理。」「いつかどうにかなる。」
ただ漠然と不安視、楽観視することで立ち止まり、自ら変化することを諦めてはいませんか。

私たちは、これからの未来を生きていく存在であり、次世代に未来をつくる存在でもあります。このまま現実を見て見ぬ振りをするのは、自分の人生に直接影響するばかりでなく、あなたの大切な人やまちの未来に何も残すことができません。先人達から受け継いだ今を生きている私たちは、直面する現実から目を背けず、自ら変化を起こし、より良い未来へつなげていかなければなりません。

「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」という言葉があります。天台宗の開祖である最澄の言葉で、「一人ひとりが自分のいる場所で精一杯努力をし、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも変えがたい貴い国の宝である」という意味です。一人ひとりの光は小さくとも、周りを照らす光となり、その重なりがまち全体を、そして社会全体を照らしていくことにつながるということです。

あなたが変化の起点となり、個性や強みを存分に活かしながら、それぞれの置かれている場所や立場で全力を尽くすことが必要です。あなたのその行動が周囲の人々の心を打ち、その人々もまたたくまに努力をする。そうしてお互いに良い影響を与え合うことで、いつしかあなたの思い、より良いまちの姿へと変化していくのです。

未来は必ずより良くなるのだと信じ、一隅を照らす光となって、共に輝きを上げていきましょう。



1 JC JOURNAL 2022 / 55th ANNIVERSARY

多様性によって組織を進化させる

「明るい豊かな社会」の解釈として、あらゆる人が様々な選択肢の中で挑戦ができ、多様性を認め合いながら地域で安心して暮らせる社会、があると考えています。そのような社会では、個人が働きがいや生きがいを感じながら、それぞれの個性を活かして躍動し、豊かさや幸福を持続的に両立することができるのではないのでしょうか。

私たち組織にとっても、多様性は重要です。社会環境の変化によって地域ニーズは複雑化しており、加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って新たな課題が発生しており、私たちは今後さらに多くの分野においてその役割を期待されると考えられます。私たちが、そのように幅広い課題に対応した運動を展開していくためには、目的に向かって、多様なメンバーの視点を取り入れ、それぞれが個性を活かして役割を全うし、周りに心をも向けることができる、一枚岩の組織であることが望ましいと言えます。

多様性の理解は、お互いに何でもあり、ということではありません。多様性を個人都合の一方的な要求として使うと、相手をねじ伏せるような主張がぶつかり合い、そこには何の価値も生み出すことができません。また、自分の意見を隠し、ただ周りに合わせるだけ、ということでもありません。相手に敬意を払い、考えをよく聞き、考えを述べ、相互理解の道具として使えば、お互いに新たな視点が生まれ、共通の目的に向けて強く走り出すことができるのです。

人間力をより高め一枚岩の組織へ

組織が一枚岩となるには、メンバーの人間力を高めることが重要です。では、ここで言う「人間力」とは何を意味するのでしょうか。

はじめに、解釈を変える力です。

これまでの自分の解釈だけで物事を判断せず、相手の立場に立って考えることです。誰でも自分ルールを持っています。あなたの中にある「こうすべきだ」「こうでなければならない」などは、自分ルールによる、あなたの思い込みや決めつけの場合があります。相手が自分ルールに外れると怒りを覚え、自分ルールが絶対的である言動を取ってしまうことがあります。そのルールや言動が、相手にとって、組織にとって、本当に価値のあるものなのか向き合い、選び直すことが必要です。

2022年度 第56代理事長

高玉 要 KANAME TAKATAMA

1982年大阪府高槻市生まれ。関西外国語大学卒業。ステラボジジャン合同会社 代表、株式会社インサイト シニアコンサルタント。障がいのある方の資金向上を目的に、ともに働くための事業開発、障害福祉事業所の支援の質向上のための研修やコンサルティングを実施。2010年JCI高槻入会。2020年副理事長、2021年近畿地区大会準備室長を経て、2022年理事長に就任。

次に、気付く力です。

人との関係において、自分の行動は正しいの常念に意識する、あるいは、相手のためにどうしたら良いかということを中心に、言動を選ぶということです。あなたが苦勞をしているとき、あなたの周りはもっと苦勞しているかもしれません。それに気付くことができれば、あなたは、自分だけがなぜこんなにも苦勞するのだ、と他人や組織を批判することも無ければ、むしろ周りを励まし、勇気付けることで、きっと人を喜ばせることができるでしょう。一方で、それに気付かない人は、思いも寄らないところで人を傷つけ、あるいは人から敬遠されることになるでしょう。組織にとって、大きな問題となる自らの私利私欲は、一旦横に置いておき、人を喜ばせることを基本にした考えをもつことが非常に大切です。

最後に、凡事徹底の力です。

まずは自分が与えられた役割を全うする。その役割を通じて、絶えず周りの人に喜んでもらう。周りの人を案じたいたいという気持ちで、自分がコツコツと行動する。そのひたむきな姿に共鳴者が現れ、いつの間にか周囲も行動を始める。さらに徹底して継続していると、地域が、社会が行動していくということです。いきなり地域、社会を変えようとするのではなく、まずはあなたがやると決め、行動を始め、諦めずに続けることが重要です。

これらの力を基本としてメンバー全員が人間力を高めること、さらに、自らで広がりをもたせてアップデートすることができれば、私たちの組織は多様性への柔軟さをもつよう、強い一枚岩になると考えます。

JCI高槻がまちに必要とされ続けるために

<地域をリードする運動の展開>

私たちは、事業を通して地域課題を解決する仕組みをつくり、まちの未来をより良くする「課題解決実行集団」です。私たちの運動が共感され、まちに必要な不可欠な存在としてあり続けるためには、運動の成果でもって認められていくものだと考えています。そのために、行政の政策課題に目を向けることや、各種諸団体、住民から解決すべき地域課題として何があるのか、様々なお声をいただけるような関係性を積極的に構築し、地域のニーズと乖離した独りよがりな運動とならないことが重要です。また、たった一度きり、その場限りの事業では、まちにより良い変化を起こすことは難しいでしょう。まちに広がりをつくるストーリーを描き、あるべき姿から逆算することで、今本当に必要な事業を構築する必要があります。

<広報と組織ブランディング>

地域課題を解決する団体としての認知度や存在価値を高めるには、発信を強化し地域内外から共感を得ることが必要です。誰に、何を、いつ、どの媒体で発信するのが整理し、戦略的な発信を行うことが効果的だと考えられます。そして、情報は目指すべき相手に適切なタイミングで届くからこそ価値があるものと理解し、これまで以上に発信の頻度を意識しなければなりません。また、どこにもある情報を流すだけでは誰の心も揺さぶることはできません。JCI高槻だからこそその専門性にこだわることで、組織のブランド価値を向上させると考えています。

さらに、ただ実施しただけ、の広報にならないためにも、広報の結果や問題点を整理しデータ化することで、評価と改善の仕組みを構築する必要があります。

55周年から60周年へ

私たちは、2022年に創立55周年を迎えます。50周年に策定した「50周年から55周年に向けての提言書」で示された4つの軸、「共育」「地域リーダーの育成」「安心安全への取り組み」「魅力あるまちづくり」のもと継続して運動を展開するとともに、これまでの運動が地域社会にどれほど寄与してきたかを検証し、総括します。そして、5年後の高槻・島本のまちの発展と、私たち組織の発展を見据え、JCI高槻としての在り方を考えます。また、その指針となる60周年への中長期ビジョンを、「社会」「環境」「経済」「人財」「組織」などの軸をもちながら策定し、発信するための会議体を設置します。

さらに、長きに渡ってJCI高槻を築いてこられた先輩諸兄姉、友好関係を築いてくださった各LOMの皆様、私たちの運動に理解とご協力をいただいている皆様へ感謝の意を示し、まちの未来を担う強い意思を示すために、55周年記念式典を開催します。そして、コロナ禍によって失われた様々な機会を見直し、まちに活力と希望をもたらす55周年記念事業を行います。

近畿地区大会高槻大会主管としての益の追求

2022年度は、JCI高槻の創立以来初となる、近畿地区大会高槻大会を主管いたします。公益社団法人日本青年会議所近畿地区協議会の最大の運動の発信の場として、近畿地区内各LOMのメンバーやまちに住み暮らす方々から、ご期待いただくこととなります。私は、近畿地区大会高槻大会を、高槻・島本のまちの魅力を最大限に発信する絶好の機会として捉えているとともに、近畿地区内の広域連携によって、近畿地区内各地と高槻・島本のまちの課題解決をスタートさせる日、と位置づけています。ご参加くださる方に、学び直しも含めた充実した学びの場を提供したいと考えています。そして、日頃より多大なるお力添えをいただいている先輩諸兄姉、まちの未来のためにご協力くださる大阪府内各LOM理事長をはじめとするメンバーの皆様、まちの発展を願ひ私たちの運動をご理解くださっている市民・町民、行政、諸団体の皆様とともに、私たちが一丸となって、近畿地区大会高槻大会がまちの持続的な発展へのひとつの起点となることを目指します。

会員拡大の推進

会員拡大は、まちにより良い変化を起こすことのできる人財を輩出する私たちの活動にとって、その根幹をなすものです。なぜなら、JCの理念や目的に共感し、行動できる人財を一人でも多く増やすことが、地域における私たちの価値を向上させ、まちに必要とされる組織として在り続けることにつながるからです。私たちは、社会の変化に柔軟であるために、多様性に富み、個人が輝く組織となる必要があります。幅広い人財が活躍できる組織となるためには、性別、国籍、生まれ育った環境や障がいの有無、職種や役職に囚われず積極的な会員拡大を行うことが重要です。そのため、各委員会とともに戦略と行動計画を策定し、会員拡大を組織全体の担いである意識を醸成し、組織的な拡大行動につなげます。また、組織の多様化を進める上でのLOMの環境整備についても調査・研究を行います。



メンバーの成長を支える仕組みづくり

私たちは、高い人間力をもち、まちにより良い変化を起こすことのできる人財を輩出する、いわば人財育成のプラットフォームです。会員拡大の推進によってメンバーの約6割が在籍3年未満という短期化が進む中、新入会員とともに、在籍年数に関わらず全てのメンバーが、JCの理念や目的を学び、まちに変化を起こすことのできる人財となるための成長の仕組みをつくり

あげなくてはなりません。地域に求められる人財の資質を明確にし、その資質を向上させるために、例会・事業や諸会議での学びの機会提供だけでなく、JCI日本公認プログラムのように質の高いコンテンツの活用や経験豊富なメンバーや先輩諸兄姉のご協力によって年間を通じた学びの場をつくります。またJCI ASPAC堺高石大会への積極的な参加や海外姉妹JCとのネットワークを活用するなど国際の機会によってもメンバーの成長を支えます。

まちの魅力資源を開発し、新たな地域の価値を創造する

人口減少と少子高齢化の進行による消費の縮小や税収の減少など、経済の縮小に加え、地域活動の担い手の減少や空き家の増加など、地域活力の低下が懸念されています。私たちは、人々の共感を生み、住民が愛着や誇りをもち、地域ブランドとして成長していく新たな価値を創出する必要があります。他地域の成功モデルを追い求めて焼き直すのではなく、地域の歴史、文化、自然などの資源に着目し、高槻・島本でしか提供できない価値を追い求め、決して一過性ではなく、地域コミュニティによって成長を続ける、持続可能な価値を創出します。そのために、新たな地域の価値が形成、維持、発展していくプロセスを設計し、単年度でまず行うべき事業を実施します。

防災・減災への取り組み

高槻・島本のまちは、近年、相次いで発生した自然災害によって大きな被害を受けました。また、南海トラフ巨大地震が30年以内に約7割の確率で発生するとも言われており、甚大な被害が懸念されています。大規模地震や水害・土砂災害は常に起こり得るものであり、災害に強い強靱なまちづくりを進めていく必要があります。災害発生時における行政や公的機関による対応「公助」の機能には限界があることから、平常時から災害を自分ごととして捉え、防災・減災対策を推進し、自らの身は自ら守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで助け合い守る「共助」といった防災意識が醸成された地域社会を構築することが重要です。そのために、行政、公的機関、企業、諸団体、住民が一体となって防災の意識を浸透させることで、災害時の適切な初動対応やその後のフェーズにつなげるための優れた地域防災ネットワークの強化を推進します。

子供たちの未来に寄り添う

将来の変化を予測することが困難なこれからの時代において、すべての子供たちが、自らの人生を自らの手で切り拓く力を身につけ、まちの持続的な発展に貢献できる人財に育てることは、私たち大人の責務と考えます。目標に向かってやり抜く力、幅広い知識・教養と柔軟な思考力を持ち新しい価値を創造する力、多様性を尊重し他者と協働する力など、いわゆる「非認知能力」を育む取り組みを進める必要があります。そして、教育は家庭、学校、地域の三者協働にとどまらず、産官学民が柔軟に連携し推進される必要があります。多様な連携によって、子供たちが未来を生きる力を身につける場を作り、私たちも共に学び成長する共育の機会を追求します。

また、子供たちが多様性を理解し、礼儀作法を学び、自立した人間として他者と共により良く生きるための道徳性を向上させ、人間力を形成していくには、スポーツは最適と言えます。オリンピック・パラリンピックの開催によって、トップアスリートたちの高い人間性に魅了された人も多くいます。スポーツを通じて、たとえ勝負に負けたとしても相手を称え、自らを支えてくれている周りの人々にも感謝ができる強く前向きな心を養い、心豊かな子供たちの育成を推進します。

結びに

1966年、高い志をもった63名の青年によって、国内350番目のJCとしてJCI高槻は誕生しました。創立以来、高槻・島本のまちをより良くするために積み重ねて来た運動は、まちに多くの共感を生み、まちの発展に寄与してきました。私たちは、社会の様々な価値観が劇的に変わる中においてもその変化を柔軟に捉え、まちの課題に目を向けて、率先して行動することによってまちの未来をつくる存在です。どんな困難に直面しても、決して思考を停止させることなく、挑戦を繰り返す。先人達が努力し築き上げた未来に生きる私たちが、その恩を未来に送り続けることが、私たちがすべきことです。あなたから始める一歩がどんなに小さくても、必ず未来により良い変化を生み出すのだと信じています。

2022年度スローガン

Be the change

可能性を、解き放とう。

2022年度 年間スケジュール

2022.1.1 ▶ 2022.12.31

month	contents
1	新年互礼会 定時社員総会 近畿地区大会高槻大会副主管締結式
2	2月例会・LDタイム「組織的な会員拡大推進」
3	3月例会・LDタイム「理念共感による当事者意識の醸成」 3月事業「子どもたちの非認知能力を育む」
4	4月例会・LDタイム「まちの課題解決策を学び、実践する」 こいのぼりフェスタ1000 ⁰¹
5	わんぱく相撲 第9回高槻場所 ⁰² みどりのカーニバル 北地域8LOM合同例会 ASPAC堺高石大会
6	6月例会・LDタイム「地域防災ネットワークの強化推進」 Jカップ U-11 少年少女サッカー大会 ⁰³
7	近畿地区大会高槻大会 創立55周年記念事業 サマーコンファレンス
8	臨時社員総会
9	創立55周年記念式典 大阪ブロック大会八尾大会
10	10月事業「まちの魅力資源を開発し、新たな地域価値を創造」 3LOM合同例会 全国大会おおいた大会
11	11月例会・LDタイム「新入会員主体のLDタイム」
12	卒業式 会員大会



01 こいのぼりフェスタ1000

JCI高槻の卒業生が作り上げた「こいのぼりフェスタ1000」も例年多くの地元ボランティアの方に支えられ実施しています。現在は「こいのぼりフェスタ推進協議会」に出向し、毎年2月頃からこいのぼりの修復作業やワイヤーチェック作業を行っています。そして春を迎えいよいよこいのぼり掲揚！当日は自転車置き場整備や出店運営を、そして最終はこいのぼりの撤去まで、芥川の河川愛護と子供たちの健やかな成長を願い、お手伝いをさせていただきます。



02 わんぱく相撲高槻場所

日本の伝統文化である相撲を通して、心身の鍛練と健康の増進を目的として1977年に東京青年会議所から全国に広まり、全国各地の小学生力士が参加する最大規模の相撲大会です。全国大会は東京の両国国技館で開催され、大相撲と同じ土俵で取組が行われます。地区大会となる高槻場所は2022年に第9回目を迎えます。



03 JCカップ U-11 少年少女サッカー大会

JCカップは勝敗だけに拘らずお互いを認め合い健闘し合える精神を養うこと、魅力あるまちの発展をめざした日本青年会議所の事業です。2018年以来、高槻青年会議所として地区大会となるJCカップ高槻大会を開催させていただき、2022年度より高槻市サッカー連盟様との共催で開催いたします。



2022年度 役員紹介

メンバー同決意を新たに青年会議所活動に精励いたします。何卒ご高承の上、一層のご指導を賜りますようお願いいたします。

 第56代理事長 ステイラジャパン合同会社 代表	 直前理事長 大阪ブロック協議会 会務担当副会長	 顧問 大阪ブロック協議会 JCAアドバイザー会議	 監事 JCI基金委員会/(公社)日本青年会議所 JCI関係委員会 近畿地区協議会 顧問	 外部監事
 副理事長 高槻市議会議員	 副理事長 浄土真宗本願寺派 歡喜山 長楽寺 副住職	 副理事長 (株)FPパートナー	 副理事長 (株)デプロ 代表取締役	 専務理事 共立建設(株) 専務取締役
 総務室 室長 兼 事務局 局長 岸本木材店 マネージャー	 近畿地区大会実行特別委員会 実行委員長 (株)TOK 代表取締役	 55周年実行特別委員会 実行委員長 弁護士法人 One Asia 大阪オフィス 弁護士	 55周年実行特別委員会 副実行委員長 住友生命保険相互会社 支部長	 財政規則審査会議 議長 近畿地区協議会/インカール-ジョイ-福祉委員会 委員長 小幡 謙 代表取締役
 会員開発委員会 委員長 行政書士 別所総合法律事務所 代表	 会員拡大・研修委員会 委員長 (株)トクテック 代表取締役	 地域価値共創委員会 委員長 (有)入江新聞舗 代表	 総務委員会 委員長 (株)サンスポーツコンディショニング 代表取締役	 渉外・広報戦略委員会 委員長 (株)pucklin 代表取締役
 理事会セクレタリー (株)カルモ 専務取締役	 スカイコーポレーション(株) 専務取締役	 ルーキー 代表取締役	 ソニー生命保険(株) ライフプランナー	 出向理事 近畿地区協議会/インカール-ジョイ-福祉委員会 委員長 (株)BeeLink 代表取締役

2017 ▶ 2021

私たちはこれまで地域の課題を解決するために、様々な運動を展開してまいりました。創立55周年を迎えるにあたり、50周年から5年間のJCI高槻の事業・例会を振り返ります。



2017

Pay it forward
～未来への恩送り～

第51代理事長
岸兵太

<主な対外事業・例会>

- 例会「広げよう愛郷心の輪 愛郷心創造PROJECT～島本町マスコットキャラクター公募説明会～」
- 例会「島本町長選挙立候補予定者による公開討論会」
- 創立50周年記念式典・祝賀会
- 創立50周年記念事業「七夕祭り～光でつなぐ絆～」
- 例会「若者が作る未来プログラム～みらいく～」
- 衆議院議員選挙 大阪10区 ネット討論会

Historical Context

東芝が経営危機・北朝鮮の核・ミサイルで緊張・藤井聡太四段が29連勝・九州北部豪雨・「共謀罪」法が成立・桐生祥秀9秒台・バブル後最高の株高・流行語「インスタ映え」付度



①創立50周年記念祝賀会 ②創立50周年記念事業「竹灯籠」 ③島本町長選挙立候補予定者による公開討論会 ④若者が作る未来プログラム～みらいく～



2018

challenge × create
～すべては未来を生きる人のために～

第52代理事長
中澤和也

<主な対外事業・例会>

- 例会「会員拡大への挑戦～魅力ある人材育成への架け橋～」
- 例会「やればできる～夢への挑戦～」
- JICカップ U-11少年少女サッカー 高槻大会
- 第5回わんぱく相撲高槻場所@野見神社
- 事業「チャレンジと創造のこども文化祭～やってみよう!」を応援する伝統文化体験～

Historical Context

平昌五輪日本冬季最多13メダル・「18歳成人」改正民法成立・米朝史上初首脳会談・大阪北部地震・西日本豪雨・台風21号・北海道地震・災害相次ぐ・安室奈美恵さん引退・流行語「そだねー」



①JICカップ U-11少年少女サッカー 高槻大会 ②第5回わんぱく相撲高槻場所@野見神社 ③やればできる～夢への挑戦～ ④チャレンジと創造のこども文化祭



55周年実行特別委員会
実行委員長
難波 泰明

55年の歴史に感謝と敬意を。 そして、5年後の未来へとつないでいきます。

周年の成功とは何なのか。答えは様々だと思いますが、高槻・島本のまちと共に歩む我々にとっての成功は、皆様への感謝の気持ちをお届けし、皆様に喜んでいただき、皆様に我々の団体を必要としていただくことだと考えます。高槻青年会議所は今年で55周年の節目を迎えます。これまで先輩諸兄姉が脈々と続けてきた歩みに感謝するとともに、受け取ったバトンを次の世代に引き継がねばなりません。我々の団体での次の世代、高槻・島本のまちの次の世代に対して、しっかりとそのバトンを受け渡し、皆様に私たちの想いをお届けできる55周年を実現したいと思えます。55周年を迎える高槻青年会議所にぜひご期待ください。

青年会議所における周年は、単なるお祝い事ではなく、これまでに行ってきた事業、例会による運動の成果を振り返り、これから進むべき方針を定め直すための重要な節目です。まずは、これまでの青年

会議所運動の総括・検証を丁寧に行って参ります。また、姉妹締結をさせていただいているJCIシンガポールシティ、JCIバリ、JCIウブドバリとの交流を含めたまちに活気と希望をもたらす記念事業、みなさまへの感謝とこれからのJCI高槻をお示しする記念式典に向けて、着々と準備を進めて参ります。

この55周年を通じて、コロナ禍で沈んだ気持ちを打ち消し、新しい時代への活気と希望をもたらせるよう、進めて参ります。その結果として、JCI高槻が、高槻・島本のまちをより良くする団体として、まちの皆様からより一層必要とされる団体となることができれば幸いです。

そして、この55周年を経て、地域の皆様、関係諸団体の皆様とより深い絆で結ばれ、さらなる高槻・島本の発展に寄与できるよう、活動して参ります。



2019

思考を停止させない

第53代理事長
皇南 澄

<主な対外事業・例会>

- 事業「考える力・物事の本質を捉える力を高める教育事業 世界で一番受けたい授業～地域の歴史は国宝級～」
- 例会「スマホ時代の子供に大人ができること」
- 事業「やる気を引き出すビジネスコミュニケーション～明日から周囲を応援団にするリーダーシップ術～」
- 例会「きみも、マールヒーローに!身近な危険を人に伝える力」

Historical Context

天皇陛下が即位。令和に改元・ラグビーW杯日本大会・消費税10%・東日本で台風大雨被害・首里城火災・抗議デモで香港騒乱・イチロー引退・流行語「ONE TEAM」



①考える力・物事の本質を捉える力を高める教育事業 ②スマホ時代の子供に大人ができること ③やる気を引き出すビジネスコミュニケーション ④きみも、マールヒーローに!



2020

率先垂範
常識を変えるリーダーとなれ

第54代理事長
元木 弘教

<主な対外事業・例会>

- 例会「子どもの可能性を伸ばす究極の講演～大人が変われば、子どもが変わる～」
- 例会「マネジメントの意識変革による組織の活性化」
- 事業「たかつき万博2020」
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止支援対策事業「マスク寄贈、高槻・島本スマイルマスクプロジェクト、次亜塩素酸水配布、たかつきおうちレストラン」等

Historical Context

新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言発令・黒人差別の抗議、世界に拡大・九州豪雨・安倍首相辞任 菅新内閣・アニメ映画「鬼滅の刃」大ヒット・レジ袋有料化・流行語「3密」



①子どもの可能性を伸ばす究極の講演 ②高槻市、島本町へのマスク等寄贈 ③7月豪雨災害による支援物資の受付 ④たかつき万博2020



2021

パラダイムシフト
解釈を変えミッションに生きる

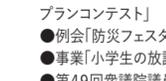
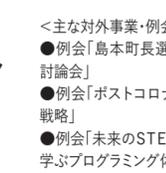
第55代理事長
木村 周平

<主な対外事業・例会>

- 例会「島本町長選挙立候補予定者による公開討論会」
- 例会「ポストコロナ時代を生き抜くための経営戦略」
- 例会「未来のSTEAM教育体験教室～楽しんで学ぶプログラミング体験学習～」
- 事業「高槻・島本 まちの未来を変えるビジネスプランコンテスト」
- 例会「防災フェスタ2021」
- 事業「小学生の放課後の居場所づくり推進事業」
- 第49回衆議院議員選挙 大阪府第10区 ネット討論会

Historical Context

東京五輪、日本は史上最多58メダル・新型コロナウイルスワクチン接種開始・熱海で土石流・コロナ世界感染者2億人超・岸田首相就任・バイデン大統領就任・横綱白鵬引退・大谷翔平メジャーMVP・流行語「リアル二刀流/ショウタイム」



①島本町長選挙立候補予定者による公開討論会 ②ポストコロナ時代を生き抜くための経営戦略 ③未来のSTEAM教育体験教室 ④高槻・島本 まちの未来を変えるビジネスプランコンテスト ⑤防災フェスタ2021 ⑥小学生の放課後の居場所づくり推進事業 ⑦大阪府第10区 ネット討論会

創立55周年の記念すべき年に、近畿地区大会を高槻で開催

各地域を右肩上がりの発展へと導きます。

JCI高槻創立以来初の主管となる近畿地区大会高槻大会で、先輩諸兄姉、行政、地域諸団体との連携を今まで以上に強固なものにし、高槻・島本のまちの魅力を最大限に発信する場とします。そして、近畿地区大会高槻大会をただ開催するだけで終わりとせず、開催後にも大きな価値を生み出す大会にしたいと考えています。

大会を通じて、直面している地域課題解決のきっかけとなることや、近い将来避けては通れない地域課題を明確に見据えることができること等、近畿地区大会高槻大会がきっかけとなって、近畿地区内各地域が、まさに右肩上がりの発展と飛躍をする機会を得ていただきたく考えております。

そのために、近畿地区大会高槻大会の開催に先立って、まずは大阪ブロック内28LOMとの副主管契約締結を行い、高槻大会への動員と協力を促します。そして、地域諸団体、行政、先輩諸兄姉と更なる連携を深め、近畿地区大会を成功に導きたいと考えております。また、近畿地区協議会最大の運動発信の場とするべく、近畿地区協議会の持続可能な近畿確立委員会とフルコミットし、事業構築して参ります。

実行委員長として主管LOMを代表し、誰よりも大会成功への強いこだわりをもち、様々な方と交流を深め、大きな巻き込みを創出し、誰一人取り残さない大会を構築いたします。



近畿地区大会実行特別委員会
実行委員長
高岡 映俊

創立以来
初開催

【近畿地区大会とは】

近畿地区2府4県の各地92青年会議所が一堂に会し、会員会議所会議・フォーラム・フェスタの開催をメインに近畿地区協議会の最大の運動発信の場として、第1回近畿地区大会が開催されてから70年もの間、大会を開催しています。2020年は、和歌山県和歌山市で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。2021年は、記念すべき70回大会が滋賀県彦根市にて現地とWEBのハイブリッドにて、大会式典と各種フォーラムに限定して開催されました。地域の未来に向けた価値創造の機会として、近畿地区大会の開催趣意を地域住民、行政、各種団体、地域企業の方々にご理解をいただくことで、地域が有する魅力や特色に対し郷土愛を醸成することを目的としました。2022年度の近畿地区大会高槻大会はコロナ禍における大会のあり方として大きな注目を浴びています。

